

東九州支部報

第76号

公益社団法人日本山岳会東九州支部 2017年1月25日(水)発行



平成28年東九州支部忘年会・12月10日・於八丁原ヴューホテル

1. 支 部 活 動 報 告		2. 個 人 投 稿	
28年忘年山行と忘年会	2	ペンリレー (NO23)	9
釈迦岳と御前岳	2	より安全な登山のために(N023)	10
忘年会	3	三角点と山城探訪シリーズ(NO20)	11
猟師岳と黒岩山	3	彦岳山頂の初日の出	12
ワクワク玄武山	4	私の無名山ガイドブック(N063)	13
清掃登山と合宿・あせび小屋	5	大分百山完登	14
宮崎ウエストン祭と黒岳・親父山	6	会務報告	14
由布岳バリエーションルート登山	6	お知らせ	15
支部長会議報告	7	後記	16
年次晚餐会報告	8		

平成28年忘年山行と忘年会

津江山系と九重連山と筋湯温泉

東九州支部平成28年忘年山行は12月10日(土)に津江山系の釈迦岳と御前岳(権現岳)、その夜は場所を移して筋湯温泉の八丁原ヴューホテルで忘年会。翌11日(日)は九重連山の猟師岳と黒岩山で山行の実施。参加者は10日の山行に32名、11日は29名で、忘年会参加者は36名と賑やかな2日間であった。この支部の行事で一番賑わう2日間には、ゲストとしてJAC本部監事の重廣恒夫会員(前関西支部長)が、今年も全日程参加で支部会員たちにつきあって下さった。

以下宮原会員による2日間のレポート。



宮原照昭(15683)

釈迦岳と御前岳

年1回の忘年会登山だ!朝起きて外に出たらそんなに寒くないようだ。6時40分、車で出発し大分駅南口に着いたら、もう3台着いていた。ここに集まったのは19名で、5台の車に分乗しての出発。道のりが長いので別々に運行して前津江の椿ケ鼻に集合ということになった。

私は玖珠 I Cで降りたら、道の駅で関西支部の重廣 さんらを載せた加藤支部長と、大分駅に寄らずに来て いた丹生さんの車が待っていた。直ぐに出発し、集合 時間を少し遅れて椿ケ鼻に8時50分過ぎに着いた。 着いた車は全部で10台。3台をそこに置いて、少し 行ったところのスーパー林道、矢部越への分岐に移動。 ここに全部の車を止めて出発の準備。それぞれ柔軟体 操などをして出発。少し行くと県境の矢部越登山口。 9時40分から登山開始。いきなり階段状の急登であ る。大分と福岡の県境尾根を登るコースで、天気が良 いが風が冷たくて、日当たりの悪い所は寒い。登山道 の霜柱をザック、ザックと踏み締めながら高度を上げ ていく。約15分で小さなピークを越して少し下った あとまた急な登りで、登山口から30分で釈迦岳直下 の鞍部についた。左に上がると頂上だが、そこは後で 行くため右に進むと、舗装道路に出て、大きなアンテ ナのある釈迦岳観測所に着いた。

ここが釈迦岳三峰の一つ、普賢岳だ。大分県内にありこちらの方が高いが、最高地点に国土交通省の雨量



(釈迦岳(普賢岳)山頂にて)

計とレーザアンテナが設置されているため、少し低い が福岡県との境にある、釈迦岳に一等三角点がおかれ ている。

アンテナのまわりは360度の大展望だが、一カ所からみると反対側はアンテナに隠れる。みんなで南側に広がる大展望を眺める。そのあと釈迦岳をバックに集合写真を撮るが、32名もいるとまとまりが悪く、なかなか撮れないが何とか撮影。

コースを戻り10分で釈迦岳頂上着く。しかし山頂は狭いため全員の写真は駄目で、直ぐに御前山へ向けて出発する。西側の急なクサリ場を下るとのんびりした稜線歩きで、釈迦岳から50分、ちょっと急な登りで、大分県側の御前谷名水コースからの道が右から合流したら間もなく御前岳頂上だ。頂上からの見渡しは、南側は大展望が開けているが、北側も木立の間から英彦山や犬ケ岳、万年山などが見える。

山頂には景行天皇がこの山を越えたという伝説にちなんで「景行天皇御遺跡」の石碑が建てられている。 景色を見ながら昼食を取り、下る前に全員集合写真を



(御前岳(権現岳)山頂にて)

撮る。下山は福岡県側の杣(そま)の里公園に向かって 下る。

いきなり急坂下りが始まり、クサリやロープか懸けられた難所を慎重に降りていく。30分で林道の第2登山口に降りる。それから林道を延々と歩き、八女か

らきた車道と合流して車道歩き。最後はジグザグ・ヘヤピンカーブの車道をショートカットコースの直登コースで急登していく。そして登りついたところが今朝登り始めた矢部越登山口だ。14時過ぎに車に着く。約5時間かかった。

急な登りやクサリ場や、快適な稜線歩きや、長い林 道歩きなど、いろいろあったが、天気も良く久しぶり の良い日であった。

車を置いてあった林道分岐に戻り、みんなそれぞれの車に乗って移動開始。行き先は今宵の忘年会場。加藤車は早めに出発、途中で重廣さんを亀石山に案内して筋湯温泉の八丁原ヴューホテルへ。ほかの車は赤石ダムのほとりを通り、杖立温泉・黒川温泉を通過して午後4時前にはほぼみんなホテルについた。

賑やかに忘年会

ホテルに着くとみんなは先ずはお風呂へと急ぐ。山を歩いたあとはやっぱり温泉だ。すっかり温まってくつろぎ、午後5時30分にみんな忘年会の会場へ。忘年会は飯田さんの司会で始まり、今年も宴会の前にまずはゲストの重廣恒夫さんの講話を聞く。関西支部80周年記念の東ネパールのナンガマリ登頂のお話だ。我々には全く未知の世界だが、未踏峰の稜線縦走のお話は興味をひかれた。

そしてそのあと、全員の集合写真を撮って宴会の開始だ。加藤支部長のあいさつに続き、今日一番長老の甲斐一郎会員の乾杯の発声で賑やかな懇親会の開宴。 みんな大いに酌み交わし、宴たけなわとなった頃から司会者の進行で、みんなが順番に一人1分間以内での近況報告となった。みんなぞれぞれ、今年の登山報告や日常生活、登山中のエピソードなどバラエティに富んだスピーチが続いた。

だんだん宴が盛り上がったが、時刻も下がり、8時 過ぎに甲斐良治副支部長音頭の万歳三唱で終宴となっ た。そのあと、会場を別の部屋に移して二次会も。し かし、次の日も猟師岳、黒岩山を登る2日目の計画も あり、早めに終了し就寝した。

猟師岳と黒岩山

朝5時30分起き天気も良く登山日和だ、まず風呂に入り、7時過ぎに朝食を済ませる。そのあと、ロビーで昨夜講話した重廣さんが、関西支部のナンガマリ

遠征時の映像をパソコンで見せてくれ、それをみんなで見る。

みんなが玄関前に揃ったところでもう一度玄関前で



(八丁原ヴューホテル前で)

全員集合の写真撮影。ここで山に登らずに帰る組と分かれ、今日だけ参加の組が合流して、それぞれ車に分乗して午前8時40分、猟師岳登山口に向けて出発。

牧ノ戸峠はマイナス3度になっている。猟師岳登山口から霜柱を踏みながらゆるやかな登りを登っていくと、前に猟師岳山頂が見えてくる。前に登った時は雨だったが今日は風が冷たいが天気は良くて、右手には九重スキー場が見える。

暖かいのでゲレンデは人工雪で白いが、山の上の方は雪はない。振り向けば九重連山が見え気持ちがよかった。40分で山頂に着いた。記念写真を撮ると下山



(猟師岳山頂にて)

開始。往路のゆるやかな草原を下っていき、途中から 左へ分かれる。分岐から20分歩くと合頭山の頂上に 着く。目の前にはこれから登る黒岩山が間近に手に取 るように見えるので真っ直ぐ行ってみたいが道はない。 来た道を引き返して登山口へ。

黒岩山登山口までは車の運転手以外はみんな歩いて 移動。牧ノ戸峠の登山口から平らな、舗装された登山 道を行くと所々雪が残っていた。目の前に黒岩山の南 斜面が迫ってきた、上を見上げながら坂道を登り始め る。 霜柱を踏みながら幾つもの分岐や合流を繰り返して登っていくと、右には海獣岩が見える、あともう少しだ。20分ほど急登したら草原台地に登りついた。泉水山への分岐の案内標がある。左に行くと黒岩山、ゆるやかな低地を経て右から回り込むようにして岩場を這い上げるとゴツゴツとした岩が現れた、40分位で頂上に到着した。



(黒岩山山頂にて)

少し遅れて登ってきた人たちを待って、全員集合写真。そして下山開始。牧ノ峠に下山したのが12時ちょっと過ぎだった。

全員車で移動し「へべんこ」で復興券の1,000 円で昼食して、最後に前の駐車場で解散式。支部長のあいさつでは来年の忘年登山は、阿蘇の外輪山がその予定になりそうだ。

2日間を32名で移動しながら登山するのは、登山口までの車の配車や駐車場など責任者は大変であったと思う。しかし、天気も良く雪もなく道路も凍っていなかったことは良かったと思う。又来年も参加しょう。

参加者…忘年会登山・忘年年会・2日間全日程参加… 加藤英彦・重廣恒夫・飯田勝之・木本義雄・園田暉明・ 中野稔・久保洋一・中島洋祐・浅野総一・宮原照昭・ 渡辺千代春・渡辺和子・若月美智子・丹生浩司・尾家 暁夫・日向祥剛・安部可人・石川洋祐・遠江洋子・宮 本真理子・柳瀬里子・松浦一幸・賀来和子・久知良美 登里・笠井美世・唐津敏徳

- 1日目山行と忘年会…下川智子・阿部幸子・河野達也
- 2日間山行のみ…清水道枝
- 1日目山行のみ…佐藤 彰・清水久美子
- 2 日目山行のみ…工藤吉子・土屋多喜子・後藤英文・ 井上紀代美

忘年会のみ…西 考子・甲斐良治・阿南寿範・甲斐一郎 ・西あずさ・石神美智子・小竹初美

ワクワク玄武山(974.3m)

11月月例山行報告

清水道枝(会友177)

登山開始前のミーティング。「今日は行きの登山道は 地図にありません。地図を見て考えながら頂上を目指 します。」「自分がどの辺にいるのか確認しながら登っ て下さい。」と言われちょっとワクワクしました。

行ったことのない山に行くとき、どんな山だろうと ワクワク。その上道がないとあればさらにワクワク。 そして往路と帰路の道が違うとあれば3度のワクワク で楽しみも3倍です。

まず熊野座神社に参拝後ここに祭られていた水神様を捜しながら、熊野上宮を目指すため砂防ダムの横から出発。3班に分かれて各班ごとにリーダーに指名された人の案内に従い進みます。地図と睨めっこするも、高度が分からないため現在の位置を捜すのは難しいと実感。

しばらく谷に沿って登っていくと最初の上宮が見えてきました。すべる岩の上を鎖を頼りに上宮到達。かなり荒れて半ば朽ちかけた土台の社が、崖の上の中に建てられていて、中には4体お像が祀られています。 少し来た道を戻り、谷に沿って足場が悪い道を登って

少し来た道を戻り、谷に沿って足場が悪い道を登っていく。少しでも登り易い所を進んで行くとグループと離れてしまい、城壁跡を見逃してしまう。

途中※松風草の匂いが強く、踏みしめた為か匂ってきます。

みんなと合流して少し登ったところが一般の登山道で、目の前に高い崖があり、下に「玄武城址」の木の札がありました。そこから急斜面を登ると三角点があり、その脇を通って少し下ったところが、両側が切れ落ちた崖のやせ尾根で、そこからロープあり、梯子ありのスリルを味わいながら頂上到達。宮崎大学の学生(ワンダーホーゲル部員)が数名先客でいました。



(玄武山山頂にて)

※そよごが赤い実をつけ、眺望も良く阿蘇の山も望め

江さんに甘えて我々は法華院の温泉に行きました。行

ます。

帰りは一般登山道を、かなり急な下りもが注意しながら降り、見たことのある神社の横に出ました。ここは去年宮崎ウエストン祭の後、親父山に登った時に車を置いた公民館の前だ。

低山ほど侮れず、むずかしいといつも感じます。 地図の読図はうまくいかなかったけど、3度のワクワ ク感を味わえた山行きでした。

※の名前は飯田さんに教えてもらいました。

参加者…安東桂三(LD)、飯田勝之、佐藤秀二、中島 洋祐、若月美智子、安部可人、遠江洋子、芝田寿一、 柳瀬里子、岩崎眞琴、清水道枝、清水久美子、松浦一 幸、久知良美登里、神田美代子、草野美和 きはあせび小屋の裏道を上がり、法華院の宿坊跡の石垣などを観察しながら、観音堂なども見物して温泉へ。そして夜に期待をし満員の湯船に身をしずめました。すっかり良い気持ちになって小屋に戻ると、テーブルの上にはもう綺麗に盛りつけられた料理が既に並べられており遠江さんのご苦労に感謝でした。

風呂上がりでもあり、誰とはなくビールを開ける人 もあり、いよいよ合宿の宴会です。加藤支部長の乾杯 で宴会に突入しました、そしてメイン料理のすき焼き



(あせび小屋での懇親会)

風鍋(東九州鍋)が出され一挙に宴は盛り上がりました。 宴がもりあがると備え付けの歌詞本を手に、山の歌を 最初から最後まで歌い上げ、何と4時間歌い続け皆さ ん元気としか言い様がありませんでした。そして、酔いもまわり歌い疲れて、一人又一人と草原の草ならぬ 布団に伏していきました。

朝は予報の通り雨が降っており、早朝の大船山へのご来光登山はもちろん中止です。降る雨と更にガスと強風にて、今日の本来の目的、清掃活動は中止せざるを得ない状況と判断。朝食を済ませて、午前8時に小屋を出発、長者原に向け下山を開始しました。



(朝のあせびり屋の前で)

雨ヶ池越コースの往復でしたが、せめてもの救いは ゴミが無かったことです。近年登山者のマナーの向上 に安堵しながら下山しました。

12時に長者原に着き、吉部にある加藤支部長の親戚の方の別荘の軒先にて昼食を取りました。その頃は

清掃登山と合宿のあせび小屋

桜井依里(15463)

10月15日(土)9時大分駅に集合し近くのスーパーで3食分の食材を仕入れ車3台にて9名が長者原で落ち合いました。長者原の駐車場は既にバス6台、普通車は2ヶ所の駐車場まで満車状態で登山人気が伺えました。

時刻は11時30分、少し早い昼食を駐車場の芝生の上で済ませて、合宿の食材などをみんなで分けて担いで雨が池コースで坊ガツルへ向かいました。天気は暑くもなく寒くもなく申し分ない登山日和で雨模様の明日の天気予報が信じられないくらいでした。今日はこのコースの清掃から始まりです。でも登山道はほとんどごみなどありません。

この雨が池コースが初めての方が二人ほどおられ、 今日の登山を楽しまれている様子で良いムードでした。 しかし1時間半もすると20kgはある食材が肩に存在 感を表し始め訓練不足を痛感しました。

午後3時にはあせび小屋に到着です。山を見上げる と紅葉にはやや早い感はあるものの、針の一突きでド ミノ式に一挙に紅に山肌を変える様相を呈していまし た。

早々に夕食の準備に着手、と言っても何時も通り遠

皮肉にも時折り日が射す天気になってました。食後は 別府組と大分組に分かれ解散し、大分組は湯平温泉に て支部長の計らいで無料温泉を頂きました。

本来の目的清掃活動はあまり出来ませんでしたが、 親睦は温泉の湯の如く温められ来年は清掃活動ができ ますことを祈り帰路につきました。

参加者…加藤英彦、飯田勝之、石川洋祐、浅野総一、 柴田寿一、遠江洋子、久知良美登里、若月美智子、櫻 井依里

宮崎ウエストン祭と

黑禹•親父山登山

大渡崇夫(会友198)

平成11年11月3日、10:00大分駅を3台の車に分乗し途中、竹田市内で昼食、白水ダム、荻岳公園展望所を経由し定刻前に三秀台の式場に着き式典に参加した。

その後、夕暮れを待って恒例の野菜集荷場へと移動し、地元の人たちとの交流会。地元の女性たちの面白くて楽しい踊りや、神楽やいろんな出し物。そのあと宿舎の公民館に移動して日本山岳会九州各支部との交流で大いに賑わって、寝袋へ。

常に、地元の温かいおもてなしの心と、来年早々に も指定される「祖母順ユネスコエコパーク」登録に向 けての熱い意気込みを感じた。



(三秀台・ウエストン氏レリーフ前にて)

4日は黒岳・親父山へ。祖母山登山口から少し戻った所に標識あり、沢まで下っていよいよ登山開始。2度ほど沢を渡り枯れ沢を登っていく、時間が経つにつ

れ傾斜が急になり足元も滑り、スズタケの根っこを何本か束にして、四つん這いでひたすら登る。

倒木がシャクナゲを押しつぶし登山道を塞いている 所を体をくねらせて通り過ぎると、黒岳と親父岳の分岐に出た10:30。

小休止の後、右へ折れ黒岳への尾根道を登る。10:50黒岳山頂に7名全員で立つ。展望はそこそこ、分岐点のほうが良いかも?早めの昼食をとり親父山経由と直接下山と2班に分かれ11:20 出発。

親父山への道はスズタケもきれいに刈られ、一ヵ所ロープの岩場があったが、とても整備されたコースだった。

11:20親父山山頂に到着。視界が開け大パノラマを 堪能、障子山が目前に見えるが今回はここまで。分岐 点までは景色を楽しみ尾根道を、12:10分岐点からは、 滑る斜地をスズタケを頼りに下りた。

枯れ沢、沢沿いを過ぎ、最後の沢渡りのところで直 帰の3名と合流。

13:33全員無事で北谷登山口到着。

登り始めて6時間30分、途中の滑る急勾配には疲れたが、天気がよく素晴らしい展望も随所に楽しめて充実した登山だった。

参加者…加藤英彦、桜井依里、宮原照昭、工藤吉子、 若月美智子、土屋多喜子、大渡崇夫

青年部山行報告

矢上將大(会友203)

平成28年11月26日、講師に安東桂三氏を迎え、青年部員4名で研修登山。一般登山道でないバリエーションルートから由布岳の北西台地(池代)へ登ってきた。由布岳正面口駐車場に集合し、今回の山行計画について話し合った後、車で自衛隊駐屯地近くの西側登山口へ移動。どんなルートなのかわくわくしながら、準備を整え登山開始。防火帯を進み、砂防工事ゲートを越えたら、その先にある谷の南側尾根にルートを取っていく。今回の山行目的の一つは、読図について学ぶ事であったため、リーダーを交代しながら、ルートファインディングを行い、地図上に設定した目的地に向

かい急斜面を登っていった。杉林を過ぎると周囲は自 然林へと変化し、大きなブナの木に出会う。そこで一 息ついた後も、ひたすら急登が続く。北西台地への取 り付きを見つけるため一旦二手に別れた後、台地にて 再び合流した。何度も由布岳には登ってきたが、ここ は初めてだった。原生林が残るこの場所は静かで美し かった。そして、この台地にあった風穴が高崎山まで 繋がっているという伝説を聞いて、みんなで笑いなが らもロマンを感じた。最終目的地である岩峰への取り つきはわかりにくかったが、岩や樹木を掴みながらよ うやく登り終え、山頂らしき岩の上へと辿り着いた。



(池代の岩峰にて)

地形図を読み取り、山の弱点を見つけながらルート を探していった今回の山行では、達成感も大きく、改 めて「考えながら登る」楽しさを学んだ。

登頂後は台地の奥にある池のほとりで昼食を取り、 苦労して登ってきた急斜面をさくさく下りて、おしま

下山後には、事務局の飯田氏と他の青年部員も合流 し、湯布院の別荘にてミーティング。今回の山行の反 省や今後の青年部活動について話し合った。



(青年部のミーティング)

講師…安東桂三

参加者…田所寿朗、生野栄城、片山功治、矢上將大 ミーティング参加者…飯田勝之、山岡研一、大津春輝、 オブザーバー参加…松田慶太郎(大分大学)

平成28年度

第2回支部長会議報告

報 告 支部長 加 藤 英 彦 (8765)

日 時…平成28年12月3日(土)10:30~12:30

場 所…京王プラザホテル42階「高尾」の間

出席者…支部 全国33支部支部長

本部 会長以下常務理事会メンバー全員9名

司会進行 常務理事佐藤。配られたレジメ 議事 に沿って議事にはいる。

会長挨拶要旨 今年振り返ってマナスル60年、山の 日スタートと多忙な年であった。長期的な財政面での 安定化をはかり、会員増強、魅力ある山岳会にしたい。 皆さまの知恵を出し合ってください。

会務報告

- 1、この後の年次晩餐会について。
- 2、名誉会員の推薦について、今年度は該当者なし
- 3、新永年会員について、合計34名、東九州支部か らの該当者なし。
- 4、秩父宮記念山岳賞について、鈴木正崇氏
- 5、会長特別表彰について、柴崎 徹氏
- 6、山岳会110周年記念事業について
- 7、後の講演会の聴講についての注意事項の説明

ここまでは通常の報告となった。この後今日の会義 の主題である10月よりスタートした準会員制度につ いて各支部の対応について別紙にての資料に基ずいて 各支部からの事前のアンケートの報告、発表があった。 準会員制度導入に至るまでの経緯について、会員減少 の歯止めとしたい、財政赤字を解消したい、会費収入 の問題、会友より正会員への勧誘の前段階として準会 員になってもらう、すでに会友制度を導入している支 部において支部規約の変更が必要である、後日、本部 としてのこの件の統一した資料を作成したい。

10月からの準会員申し込み受付がはじまっている。 すでに5名の申し込みがある、

そのうちの2名が東九州支部からである、準会員の会 員番号について私が質問をしたが頭にAをつけて1番 からの番号となる。そして正会員に変わるとまた違う 番号がつくとの回答であった。

あとで判明したのだが準会員の番号AOOO1とAO 002番はわが東九州支部からの申請者であった。ま ことに良い記念となる番号のスタートとなった。

その他の議題で「会員証」の発行、提示における提携

施設の検討段階の報告があった。

通常総会における定足数の説明が今年の総会時の例で なされた。

「その他」の項で直近で発生した遭難事故(広島支部) の途中経過の報告があった。それに対して本部、遭難 対策委員長のコメントもあった。

12時45分終了

平成28年年次晚餐会報告

加藤英彦(8765) 報告

日 時…平成28年12月3日(土) 18時開始 場 所…京王プラザホテル5階

コンコードホールルーム

まず会員番号順にて受付があり名前をいって名札、 レジメを受け取る。13時30分より晩餐会開始まで の間、講演会、絵画展、図書交換会、などが用意され ており今年はマナスル登頂60周年ということで貴重 な資料が展示されていた。

講演会

- 1)「ゴジュンバ氷河調査の報告」 大森 弘一郎氏 2) 「関西支部東ネパール登山隊2016」 重廣 恒 法氏
- 3) 「日本の山岳信仰と修験道に関する宗教的研究」 鈴木 正崇氏

私は時間の都合で2番、3番の講演を聴いた。

特に2番の関西支部80年記念のネパールナンガマリ 峰の登山隊の報告を聴いた。お世話になっている重廣 さんが隊長で参加。講演も映像を見ながらの貴重な体 験談、苦労話を語ってくれた。

21年ぶりに昔のスタイルでのネパールへの遠征隊の 統率をされていろいろな面での苦労があったと思われ ますがさすがは重廣さん。みごとに成功されてよかっ たというところでしょう、

参加した若手も3人、ひとことしゃべっていたが印象 に残ったのは後日重廣さんが語っていた「今の若手は 昔の同年代との差があり3分の一くらいの力しかない」 といったことでした。

3番目の講演者ほこの功績で本年度の秩父宮記念山岳

賞を受賞され記念講演をした。

皇太子殿下もこの講演をお聴きなっておられて講演者 にとってはかさねがさね栄えある講演であった。

晩餐会は参加481名で私は「朝日岳」のテーブルマ スターに指名された。

席順は指定されており「朝日岳」のテーブルは9名が 東九州支部で占めており、あと一人は宮崎支部長末永 氏であった。

18時きっかり皇太子殿下の入場で始まり、きめられ た式次第に則ってたんたんとすすめられた、会長挨拶、 物故者への黙祷、新永年会員顕彰、代表挨拶、第18 回秩父宮記念山岳賞発表、受賞者挨拶、会長特別表彰 発表、受彰者挨拶、新入会員紹介 代表者挨拶。

そして恒例の「鏡開き」が5人のメンバー(皇太子殿 下も入って)で行われて乾杯、祝宴へと入っていった。 各テーブルでの歓談、支部と支部会員の紹介、そして 会員相互の懇親へと時間がながれた。

年一回の年次晩餐会は会員の方々が一学に会して親睦、 交流ができる会の最大の催事である。格調高い会の晩 餐会、皆さんも一度でいいから参加してみてはいかが でしょうか。会員としての自覚が変わることになるで しょう。

なお今年から会員でない家族の同伴もみとめられた。 支部の初参加渡辺さんもご主人を伴っての参加でした。 配られたレジメの今年の物故者の欄(48名)に東九 州支部会員番号(14504番)下川幸一さんの名前 がありました、まことに残念でした。



(晩餐会場ステージ上で支部員勢揃い)

参加者…佐藤浩幸、加藤英彦、飯田勝之、木本義雄、 菅 泰三、佐藤壮悟、石神美智子、渡辺保恵(夫妻)、 渡辺和子、工藤吉子、若月美智子、土屋多喜子、日向 祥剛

個人投稿

ペンリレー・第23回

このごろの登山事情を考える

宇津宮隆史(9275)

JAC東九州の皆様にはご無沙汰しております。いつもJAC東九州支部報を楽しみにしています。2016年は合計65回の山行でした。多くが由布山と久住山で、毎年2回、春と秋に北アルプスに入っています。昨年はいい山小屋を見つけました。大天井ヒュッテです。親父が昔気質の話せる方で、一定のファンもついています。最近のモダンな雰囲気に違和感のある我々には懐かしい、いいり屋と思います。私はほとんど単独行で、68歳には少々きついこともありますが、今でも由布山に調子が良ければ1時間半で登っています。ヒマラヤトレッキングの5、000mを除いて、私の最高到達点はマッターホルンの4、506mで、それ以上で安心できるのはキリマンジャロかと思いますが、日数と手軽さで高い山はないかと探しています。2016年の当院の職員旅行は黒部・立山アルペンルートと上高地散策でした。

さて、JAC東九州のテーマです。「山の日」が制定されてご同慶の限りです。その影響かとも思いますが、最近の特徴は山で会う人がかつての中高年から、若者へと変化し、本当に喜ばしいです。ただ装備や足取りが街中での延長線のようで、何かあったら心配です。しかもやたら明るいトーンで「こんにちわ」と、こちらが登りで喘いでいるにかかわらず、しかも何人からもです。その割には登り優先など知らぬ存ぜぬという状態です。犬を連れている人や、ラジオをかけている人などもいます。また、リーダーのいない中高年のブループが多いといいます。かつて久住山黒岳でマナーの悪い20人くらいのグループにとうとう怒鳴りつけたことがありましたが、その際、リーダーを聞いたら、こんなに大きいグループでリーダーはいない、グループも寄せ集め、(しかも、「お前は誰だ」と聞くので「日本山岳会だ」と答えましたがJACを知りませんでした)。

あのトムラウシ岳の悲劇も宜なるかなと思います。3年前の春に涸沢から雪の小豆沢を直登していると、上からおじさんが転げ落ちてきて私の横で止まりました。死んではいませんでしたが、頭と顔、腕を骨折していてヘリで運ばれて行きました。滑落初期停止に失敗したのでしょう。

さて、気になるのは久住山です。今や、久住山は九州、日本全国のみならず、韓国、台湾を中心とした外国の山好きにも人気の山です。ほとんどが牧ノ戸峠からのコースです。しかし、このコースは雨が降ったら最悪です。雪解け時も同様です。深い泥道と化します。赤川からのコースはかつて大分大学工学部の学術研究の対象道となり、今ではあの登りにくかった黒土道は木道に整備され、格段に登りやすくなっています。尾瀬ヶ原や、上高地の木道は言うに及ばず、各地で自然保護のために登山道が整備されてきています。八甲田山では山頂付近以外は主要全コ

ースが木道で案内されます。私はこの大分県の誇る久住山の牧ノ戸コースは是非、木道化すべきと思います。今はコースを外れないように無粋なロープなどが設置されていますが、歩きやすくなれば誰でも脇にそれることなく正しい道を歩きます。また。自然を破壊するという意見もありますが、今のままの泥道のほうがもっと自然破壊が進行すると思います。そんなに自然に近い状態が好きなら、そのような山は大分には他にもたくさんあります。久住山はすでにそう言ってはいられない状態になっていると思います。ここらに JAC東九州のリードすべき将来があるように思えますが、いかがでしょうか。



(大天井ヒュッテの親父さんと)

次回ペンリレーは児玉章良さんにお願いしました。お楽しみに。

より安全な登山のために

N023

「大丈夫?は 大丈夫?」

安東桂三 (9193)

リーダーは良く『大丈夫?』とメンバーに問うが、聞かれたら反射的に『大丈夫』と返答してしまう。そこで聞き方を変えなければならない。

例えば、リーダーは『天気も悪いし、あと3時間も歩かねばならない。あなたの歩き方は少し不安定だし、スピードも出ない?。大丈夫か?』と尋ねるように問う。問われたメンバーも、自分の状況を正しく返答しなければならない。それがパーティ(チーム)にとって、重大なことになるかもしれないポイントとなる。負担を正しく伝えなければ、安全に登山できる可能性が下がってしまう。

『きつい』と言い、状況を正しく伝えて、パーティ全体でカバーするこが出来れば、そのパーティには、安全が保障される。

さて、現在の日本は少子高齢化、人口減少と多くの問題を抱えている。人口ピラミッドは歪み、働き手の若者は少ない。東京オリンピック、豊洲などのお金の問題が噴出している。噴出しているのに国民はその問題を正しく理解していない。

例えば、東京オリンピックの費用は3兆円越えるとか、東京都民1300万人で、一人当たり計算すると2万33000円の負担。子供や高齢者を除いて考えると、1一人当たり4万円も5万円にもなってしまう。東京都民だけで負担するとは限らないが、その金額の大きさにびっくりしてしまう。『オリンピックは大丈夫?』

大分県の平成27年度の歳入は5612億円。豊洲は、総事業費が3900億円だったのが、今では5900億円に膨らんでいる。ただニュースなどのメディアで、その金額が報告されても、金額が金額だけに良く判らず、大丈夫?とおもってしまう。大分県の歳入と豊洲事業費が、同額とは?

また最近、福島第一原発の廃炉賠償費用は、20兆円を超えることが伝えられた。いくつかの試算で、20兆円超となったわけだ。廃炉費用といっているが、解けた原子炉のデブリ回収までの費用しか含んでなく、デブリの処理費用はいくらかかるか判らず、未知数となっている。本当に大丈夫?。

日本山岳会東九州支部について、少し考えてみると27

年は支部会員が78名であったが、28年は74名と減少。平均年齢は、64歳。

日本山岳会では本年、"支部会員動向とその分析"を公表した。それが先の数字で、リスクも評価された。限界集落ではないが、限界支部ということで、全国33支部のうち、10支部が将来問題ありとの評価をされた。九州5支部のうち、2支部がその評価となり、幸い当支部はそれに含まれなかった。

当支部の64歳の平均年齢は、5支部のなかで一番若い。将来問題ありの二つの支部の平均年齢は、73歳と71歳であった。でも当支部も現状で行くと、来年になれば平均年齢は一つ歳をとり、65歳になってしまうと予想される。あと何年大丈夫?

組織の問題、山行の問題、その存続の問題、本当に大丈夫か?



(切れかかったロープの写真)

写真の説明

本年6月8日に宮崎県の丹助山に行ったが、天狗岩先の固定ロープが、エッジによってダメージを受け、切断されかかっていた。それを手で触ってみるとボロボロと繊維がほどけてしまった。これは大丈夫でないと判断し、持参のロープをセットしそれで下降した。

次に12月23日の丹助山の同場所を訪れたときは、そのロープは、切断し(あるいは切断され)結び直していた。誰かがその箇所を結びなおしていたようだった。でも一か所が悪いということは、それ以外の箇所も、同じように強度が落ちているということ。これも、違った意味での大丈夫?

交花山城・玄武山・古処山城

三角点と山城探検シリーズ第20回 安部可人(友11)

- 1. 立花山城 (昨年5月月例)「立花山」の報告者浅 野総一さん、道雪の紹介有難う。道雪の墓は左、中央 が母堂、右に家臣薦野ユモノ(立花)増時。大鳴山系の西 登山口「清滝」が薦野氏の世界です。西山1等三角点 から、西・安部は雨中犬鳴山(熊ヶ城)登山・待機、 縦走組の飯田・中野・牧野組と合流した。月例「福智 山」の中腹眺望の「鷹取城」(のちに母里太兵衛城主) に立ち寄った会員へ。城主毛利鎮実は道雪に糧食輸送 を依頼、宗像氏の家臣団が若宮ゴルフ場で帰途の道雪 隊を襲撃「小金原の合戦」、*宗像氏貞の妹於色姫は道 雪の側室(松尾殿)として輿入れしていたが、和睦破た ん、つらい立場の姫は早死した。昨秋長谷ダムから「三 日月山」(写真)登山して、老齢には距離があるので 目前の「立花山」は断念(用心深い、弱気)。再度「下 原」から「立花山」・「松尾山」に挑戦したい。南側か ら攻められ、遺構が多い。
- 2. 玄武山城 (クロタウ) (昨年11月月例) 熊野神社上宮(写真) 分岐640~直角変針真東へ谷筋、900地点(城跡) で主尾根に合流、安東さんのサポートで久しぶりの本格的な登山だった(脚痙攣)。*この山城(遺構ナシ)解説「吉村惣右衛門尉種供(共)、天正6年(1578)宗麟攻めて落城」は、延岡の雄島津方「松尾城」土持親成の家臣だったから、同時に攻め滅ぼされた。*目向の名門伊東義祐は島津・土持に敗れ豊後へ亡命、大友軍日向回復1次遠征でも五ヶ所(三秀台)通過」、とは疑問が解けた。勝利に酔って油断の宗麟は、2次高城川・耳川戦で島津に大敗北(8年後島津軍豊後侵入)、衰退して滅亡した。
- 3. 古処山城(今年4月月例) 甘木から小石原川沿い秋月まで両側は10ほどの山城(秋月24支城)で守っている。秀吉が秋月種実のそれを褒めている。昔猛暑9月の登山は林道不通もあってバテたから、西の経ケ峰(遺構多い)770には行っていない。峰から2つ三角点670.2~446.7(堀切)~317(堀切)~・222(砦)~観光地まで5km(高度差640)の尾根全体が「坂田城」で、物資運び上げと避難路だったか。惜しいかな、その元気はない。(観光)太閤の石 島津方の秋月種実・大友氏最大の天敵は、娘と茶器を献上助命された。そのとき秀吉が座った石福嶽城 西に神社の幟がみえて、家臣福武氏の館城跡、

古処山の展望台、3分。

帰途のおすすめ 秀吉も駕籠で越えた歴史ある秋月 街道の八丁坂を嘉麻かへ下れば、大河ドラマの豪傑母 里太兵衛の「益富城」(もと秋月種実の隠居城)が近い(公園化され周遊20分)。*後藤又兵衛は放浪癖ある 奇人、長政と不仲、この城から出奔。小石原で陶器のみ やげ。

4. 岳城山〜若杉山〜ショウケ越〜月例・砥石山〜三郡山〜宝満山〜愛嶽山(升形城) 人気の8時間縦走路をトライしませんか。立花山の帰途、皆さんは釈迦の涅槃像をみましたね、裏山が旧九州百名山「若杉山」始点です。西端の岳城山3等三角点381.3は、「高鳥居城」です(写真)。*名門星野氏も島津方、この城で目前の「立花城」攻めを支援したが、結局立花宗茂に攻め滅ぼされた(あんべよしと)



三日月山取付き



高鳥居城二の丸



玄武山・熊野神社上宮

彦岳山頂の初日の出

飯田勝之(10912)

今年も元旦の彦岳山頂にはJAC東九州支部のメンバーが幾人も顔を揃えた。私はこの近年、元旦は妻と一緒に彦岳の山頂で初日の出を見ることを新年の恒例行事にしている。この日も別府を早朝に出て、津久見の彦ノ内から林道彦岳尺間線に上るべくその林道入り口に行ったら全面通行止め。事前の調査不足を悔やんだが、仕方なしに上浦へ回って浅海井からの林道へ迂回。6時30分に林道の登山口についた。彦岳への最短(手抜き登山)コースである。時刻が下がったので急いで支度して登り始める。

7時ちょうどに山頂に着いた。もうそこには日の出を 待つ沢山に人がいたが、その中に彦ノ内の彦岳トンネル 口から登ってきた加藤支部長ほか我が支部会員たち1 2名が揃っていて、早速雑煮の準備にかかっていた。み なさんに新年のごあいさつ。そうして持参した、福島県 から取り寄せた地震復興の気持ちの込もったお酒を出 して乾杯を始める。もちろん運転者さんはご遠慮願って のこと。私の帰りは妻が運転を引き受けてくれることに なっている。申し訳ないが毎年こうだ。入れ物は加藤支 部長手製の竹の杯が配られる。その裏には大吉、中吉、 小吉などが書かれていて乾杯の趣向を高めてくれる。

隣では地元狩生の人たちが毎年火を焚いて、焼いたお餅やかっぽう酒を振る舞ってくれている。今年もその接待が始まった。早速かっぽう酒を頂く。そのころには薬師寺会員特製のお餅が入った雑煮も出来上がってきた。美味しいお酒、温かなかっぽう酒、美味しいお雑煮などで盛り上がっていると、東の水平線の雲の上に太陽が顔をのぞかせた。大きな丸い真っ赤なご来光。上空は雲つない快晴、今年は格別に素晴らしい初日の出だ。みんなで万歳!今年はちょっと良い年になりそうな気分だ。毎年この山頂で一緒になる臼杵の山本さん(会員)も中に入ってみんなで記念写真を撮る。

20代の頃、元日には私は生活の根拠地が近かった延岡市の行縢山や可愛岳にたびたび初日の出を見に登ったことがある。両山とも日向灘からのご来光がことのほか雄大だったのを覚えている。その後は、九重の大船山や久住山、由布岳、鶴見岳などで初日の出を見に登ったが、何れも遠くの山の上からの日の出で、今ひとつ物足りなさを感じたものだ。初日の出りサーチではほかにも九六位山、樅ノ木山、鎮南山など足を運んでみた。

人づてで佐伯の元越山の日の出が素晴らしいと聞

いて、行ったこともある。ここは確かにスケールの大きな初日の出が見られた。そしてその良さに惹かれて翌年も行ったが天気が悪くて駄目だった。それ以降は行っていない。何しろ佐伯まではやはり遠かった。高速道のない頃には、午前1時過ぎに出ないと日の出までには山頂に立てないから、年越しのお酒を控えなければならないのだ。

そんなわけで彦岳が距離的にもまあ手ごろで、しかも 高速道が出来て、林道からの手抜き登山が容易で、豊後 水道からの雄大な日の出を堪能できるから、近年ここが 定着している。そしてここでは我が支部の仲間たちと新 年のあいさつを交わせる。

賑やかに新年の交歓をしていると、お日様も水平線からだいぶ登ってしまった。賑わっていた山頂から、みんな三々五と下り始めた。我が支部会員たちも彦ノ内めざして下山開始。その姿を見送って私たち二人も車を置いている林道登山口へ下り始めた。新年のお屠蘇は帰宅後の楽しみだ。



(彦岳山頂の初日の出を受けて)

山頂で会った支部会員 (加藤英彦、山本康夫、桜井依里、薬師寺 正憲、宮原照昭、渡辺千代春、渡辺和子、尾家暁夫、丹生浩司、 久知良美登里、芝田寿一、岩崎眞真琴、古谷剛造)

私の無名山ガイドブック NO63 (1033.3m) (951.4m)

飯田勝之 (10912)

津江山系の南にどっしりと座る酒呑童子山は、東西に長い稜線を広げ、その長大な稜線が中津江村と上津江村の旧村境をなしている。この酒呑童子山から東に延びる主稜線はすぐその先で北に向きを変え、その先の1051mの独標地点から東に向きを変え、さらに湾曲を繰り返しながら四ッ城山の方に徐々に高度を下げている。この途中にある、二つ並んで三角点の設置されたピークが兵古と程野である。

アプローチは国道387号線の上津江村川原の「一の渡頼橋」バス停から平藪へ上る市道がよい。国道から約2.1 km上ると左に林道が分岐する。このコンクリート舗装の林道を上ると、約1.3 kmで左に林道が分かれて、このあたりから舗装が切れるので、ここらから林道歩きとなる。左に入らずにまっすぐ行くと数分で道はすっかり荒れてきて、次第に深い力ヤで覆われてくる。夏は深い力ヤやキイチゴなどで難渋する道だ。歩き始めて約45分(1.6 km)で右に、力ヤの深い林道が分岐する。この道に入り、ほぼ平坦な林道を力ヤを分けて進むこと15分余りで終点となる。

その地点から左の斜面のとりついても良いし、終点の150m程手前の斜面から左にとりついても良い。とりつきやすい地点を選んで林道の崖に上り、あとはひたすら上をめざす。どちらからとりついても、地形図にある尾根を登ることになる。奥のとりつきからは山頂の東側へ、手前のとりつきからは山頂の西側の主稜線に登りつくことになり、どちらの登りもはじめは植林地の中だが、すぐに灌木林の中の軽いヤブこぎ登りとなる。やや急な斜面をはず直登していくと、林道から約30分余りで山頂に達することができよう。

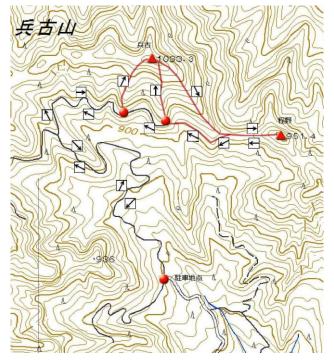
狭、小さなピークのほぼ中央に四等三角点がある。ミズナラ、ナツツバキ、ヤマザクラ、ブナなどの木立の中、樹間からわずかに釈迦岳や渡神岳などが望まれる。地形図にある兵古山の主峰は、ここよりやや高い、700m西の1051mの独立標高点である。

程野へはこの頂上から東に稜線を辿るのだが、数分でやや南に向きを変えるところが間違いやすいところだ。まっすぐ下ると稜線を逸れてしまう。地形の確認しにくい急斜面の稜線を、前方や横の地形と地図を確認しながら慎重に下らなければならない。読図力が試されるところだ。しばらく下ると稜線ははっきりしてくる。20分

ほど下るとやせた馬の背状の鞍部に下りつき、露岩の多いやせ尾根を少し行くと小鞍部で、ここから急斜面の登

りとなる。しかし露岩の多い急斜面を10分足らずの登りで小ピークに達し、その中央に四等三角点を見つけることができる。ここが程野である。ここも木立の中で展望は余り望めない。

下山は先ほどの馬の背状の鞍部まで戻り、そこから西にトラバース気味にいくと数分で下に林道が見えてくる。降りつくとそこは林道の分岐点で、下から来た道は駐車地点の500mあまり下に合流しているのでこれを下らずに、西に水平の道を行く。この道は200m足らずで行き止まりとなるが、良く見るとその10mほど上に林道の路肩が見える。木立の急斜面をよじ登ればそこは登りに使った林道の終点である。あとはこの来た林道を下れば45分ほどで駐車した林道分岐の地点である。



参考タイム…林道分岐(駐車地点)~(60分)~とりつき地点~(35分)~兵古~(40分)~程野~(20分)~とりつき地点~(60分)~林道分岐(駐車地点)

地形図 25000 分 1 地形図 鯛生

大分百山完登

土屋多喜子(15827)

「百山完登に何年かかった?」と聞かれても即答できない。

高校卒業後、大阪の専門学校時代、山好きの友人に誘われ近郊の六甲山、金剛山等にハイキングをしていた。山との出会いだった。

大分で就職して職場の人と、結婚しても家族ぐるみアウトドア派の友人家族と、キャンプや登山を楽しんで、由 布、鶴見、九重連山等はその頃よく登った。

再就職した職場に、吉田さんが居て「歳が同じだね」と親しくなり、彼女を通して「上野 12 期山の会」に入れてもらえた。

娘二人は家を出て、夫は退職後3年で逝き、独り暮らしだった私は、又、山を楽しむ事が出来、随分と慰められた。 その中で「大分百山」の事を知り、「日本山岳会東九州支部」の事を知り、加藤支部長始めたくさんの山の仲間と も出会うことが出来、又一つ違う世界を垣間見る事になった。

大分百山登破については、私は行ける時に、行ける山について行くだけでいい、百山登破を成し遂げたいとの気持ちは大きくなかった。

次々と百山完登者が出て、完登祝賀会に出席していて、『昨年のその会の時「次はもうあんたの番で」と言われ「えー私も?」と戸惑うばかりだった。

その時点で整理してみると、残ってる山が 30 座程。それを一年間でクリア出来る様にリーダーが綿密に計画を立ててくれた。

ここ2山は近いので1日に2山、ここは県境で遠く、山も厳しいので朝6時半集合等々。車も運転出来ず、勿論登山口など分からない私は、言われた事を忠実に守ることに専念した。

でも「もう無理、私降りる」と弱音を吐いた事も。そんな時、共に完登を目指していた若い友に「駄目よ、一緒に祝賀会開くんでしょ」と励まされたり、朝早くに家まで車で迎えに来てもらったり、夜は又家まで送ってもらったりと随分迷惑をかけた。

県内一円に分布の百山、海辺の高崎山から、山深い県境の祖母山、傾山と、山名も良く知られた由布、鶴見から読むことも出来なかった月出山岳等々。

「百の頂に百の喜びあり」の名言を体感。

深い雪景色が忘れられない福万山、初めて見たアケボノツツジの美しさに感動した夏木山、ヒメシャラの自然林は京都の名園に勝るかもと、是非もう一度登ろうと思った新百姓山、急登続きに疲労困憊した桑原山どの山も思い出に繋がる。

県内を巡り、目指した山の名の由来、信仰や歴史、戦や伝説とその地区との関わりもガイドブックに詳しく、それらを知る事は興味深く大分県を少しは深く知る事に繋がったと思える。

下川後時間がある時にはその地区の温泉に入るのも大きな楽しみであった。

百と言う数をクリアするのは大変であったが、山の日の制定された今年に完登を果たせたのは嬉しく、リーダーはじめ共に登った多くの山の仲間に感謝の念が大きい。

会務報告

支部の会議報告

支部役員会

第5回役員会 11月17日 (木) コンパルホール

- (1) 忘年山行と忘年会について
- (2) 50周年記念事業について
- (3) 会員の増強と準会員制度の発足について
- (4) 青年部活動について
- (5) 月例山行の実施計画について

- (6) その他
 - ①年次晚餐会
 - ②喜寿お祝い登山
 - ③親子で登る山の4番目の紹介
 - 4)そのほか

6回役員会 1月23日(月) コンパルホール

- (1) 本部報告への事業報告について
 - 28年度事業報告・会計報告
 - ② 29年度の事業計画・予算計画
- (2) 大分百山・三訂版の発行計画について
- (3) 定期総会に向けての準備について
- (4) 支部青年部の取り組みについて
- (5) 当面の行事等

平成29年度定期総会のお知らせ

第5回支部役員会で平成29九年度定期総会を、次の通り開催することを決定しました。支部会員(会友・準会員・会員)の皆様にはあらかじめ予定しておいて、是非ご出席ください。なお、後日返信用はがきつきで正式にご案内します。

- 日 時…4月22日(土)午後6時より
- 場の所・・大分市・コンパルホール「視聴覚室」
- 受 付…午後5時30分より

お知らせコーナー

月例山行のご案内

2月月例上行:積岩山(1414m·熊本県)

- 日 時…2月25日(土) 26日(日)
- 出 発…2月25日((土)午前6時00分

集合場所・・大分駅、上野の森口

装備・・1泊2日テント泊装備・シュラフほか(テント持 参者は届け出名)

福寿草を期待しましょう

参加申込は2月18日までに

リーダー: 飯田勝之 (0977-21-3437・090-2503-8409)

メール yamatomoki@ari.bbiq.jpまで

3月月例止行:根子岳西峰(1394m·熊本県)

日 時…3月12日(日)

第76号

出 発・3月12日(日) 午前6時00分

集合場所・・大分駅、上野の森口

装 備・□帰り登山・ヘルメット持参のこと

参加申込は2月3日までに

リーダー:リーダー:安東桂三(097-552-2367•090-5727-9472)

メール keizoando@galaxy.ocr.ne.jpまで

4月月例止行:古処山(859.4m·福岡県)

日 時・4月16(日)

出 発・4月16(⊟) 午前6時00分

集合場所・・大分駅、上野の森口

装備・→帰り登山装備

参加申込は4月7日(土)までに

リーダー:リーダー:興田勝幸(0978-62-4351•090-9070-9407) メール okita.18.2.2@docomo.ne.jp まで

準会員制度が発足しました

昨年10月から日本山岳会に新しく準会員制度がスタートしました。入会金・年会費・加入手続きなどのハードルを低く下げて、一定期間準会員として加入して頂き、そのうちに正会員に移引して頂くという。加入へのアプローチ期間として発足した新たな制度です。いきなり正会員には・・・、と躊躇される方への入門コースです。

会友の方にはこの機会に準会員への加入もお奨めです。また、LL登りを楽しんでおられるお洗り合いの人にも読んかけてみて下さい。

入会手続き

入会金 5,000円 (正会) (正会) (正会) (正会) (100円 の) (100円 の) (正会) (100円 で) (

年会費 6,000円(入会時は月割り計算)

- 資格会報・機関誌・上高地の山脈が用をはいめ、年次脱餐会など日本山岳会の行事や登山などほとんど会員と同様に利用・参加できます。
- 期間3年以内に正会員になっていただくための準備期間ですので、その間に正会員にならない場合は準会員の資格がなくなります。(会友が準会員になり、3年以内に正会員にならない場合は会友に戻れます)

(東九州支部から全国で第1号・河野達也さん、第2号・尾家 暁夫さんが準会員として登録されました)

後記

- ・新しい年のはじめ。今年は「酉年」(とり どし)。酉(とり)は「鳥」でもなく「鶏」 でもないけど、「にわとり」のこと。商 売関係に縁起のよい十二支とされ、「と り→とりこむ」で、商売に繋がるとされ ている。行動力があり、積極的。親切で 世話好きという意味もあるとされている。
- ・十二支(じゅうにし)は12の動物で表されているが、実はこれはこじつけで、中国で生まれた十二支は、十干(じっかん)と合わせて干支(えと)という、60の組み合わせをいう。「今年の干支はなんですかと聞か」れて「酉年です」と答える。聞く方も答える方も間違いに気づいてない。正確には今年の干支(えと)は、十干(じっかん)は丁(ひのと)十二支(じゅうにし)は酉(とり)で、合わせて干支は丁酉(ひのととり)と答えるのが正しい。
- ・その丁酉の年を迎える暮れから正月にかけて、今年も山の事故が多発している。報道によると、年末年始6日間で富士山、北アルプス、中央アルプス、南アルプスなどで16件の事故があり、7名が死亡している。そして死亡事故のほとんどが滑落と見

られている。死亡やけがなどの事故にカウントされない、遭難してSOSなどで救助された件数を入れると倍ちかいとのことだ。

- ・最近の登山ブームは冬山にも及んでいて、日帰り登山 の延長の感覚で冬山に入る人たちが増えている。その 結果として遭難事故が増えるという。山はいうまでも なく、季節問わず大自然の中におかれることのリスク が潜んでいる。中でも冬山はそのリスクは多く、大き く、またもたらすものがより危険になる。
- ・人は皆、自分が事故を起こしたり、巻き込まれたりすることはないと思って山に入っていく。しかし、自分で起こすこともあれば、雪崩やザイルなで人から巻き込まれることもある。九州では雪崩に巻き込まれたり、氷の斜面で滑落したりということは滅多にないが、簡単なことで滑落、転落につながることは多い。

吹雪に行く手を阻まれるということもまずはないが、皆無とは言えない。

・山に向き合う時には、常に秘められたリスクを知り、 それに備える知識と技術・技能と行動力が必要だ、と いうことを今更ながら考えさせらた新年のお屠蘇で あった。

(K • |)

岳人のつどい「山の映画上映会」

ブルックリン国際映画祭(USA)ほかドキュメンタリー最優秀作品賞受賞のブータン映画

「思いを運ぶ手紙」

B Yikhelgikawa (The Price of a Letter)



幸福とはいったい何なのだろう。ブータン、標高 4000 メートルの山中にあるリンシ村。放牧など昔ながらの暮らしがある。テンジンはこの村の郵便配達員。26年間、10日以上かかる首都・ティンブーへの厳しい山中を毎月往復し手紙を届けて来た。都市と村の両方を見てきた彼の思いとは・・・。ブルックリン国際映画祭(アメリカ)ほかドキュメンタリー最優秀作品賞受賞。

製作国:ブータン 製作年度:2004年 70分 ※どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせの上お申込み下さい。

①映画『思いを運ぶ手紙』上映会と ブータン紀行・スライド映写会

- ●日時: 2017 年2月5日(日) 1400~1600(開場 1330) 映画約1時間10分上映後、ブータンやチベットに通い続けている渡部秀樹氏によるスライド上映と解説(約20分)も行ないます。 ※映画はDVD版を映写します。劇場上映のような高画質、高音響ではありませんのでご了承下さい。
- ●会場:太宰府館・まほろばホール●映画会会費:500 円(会場費等)太宰府市宰府3-2-3 (西鉄太宰府駅下車 徒歩2分) TEL:092-918-8700
- ②懇親会(岳人のつどい新年会)同会場にて懇親会開催 1630~1830
 - ●懇親会会費:4,000円
 初春を祝い山の話に花を咲かせましょう。

■主催:日本山岳会 福岡支部

- 後援:九州登山情報センター(山の図書館) ■協賛:福岡県山岳連盟、福岡県勤労者山岳連
- 【お問合せ・お申込み】 日本山岳会福岡支部事務局(アルパインツアーサービス内)

FAX:092-715-0826 ■TEL:092-715-1557 ■E-MAL:fko@jac.or.jp

公益社団法人日本山岳会東九州支部 東 九 州 支 部 報 第76号

2017年(平成29年) 1月25日発行

発行者 加藤英彦

編集者 飯田勝之

印刷所 佐伯印刷株式会社

発行所 事務局

〒874-0820 別府市原町5-14 飯田方

TEL·FAX 0977-21-3437

E - mail yamatomoki@ari.bbiq.jp